



東京日々新聞

七百九十号



純粋の江戸生と稱せ傲慢の
一癖ハ一九ノ著述の膝栗毛よ
誰々も知る弥治喜多ハハ孫よや
ありん。狐と乗せ馬喰町に住る

某の二名ハ王子邊ニ商用ナリテ
到リの途中。路傍の廁ノ入リ用成
便一人ニ言ふト「ヨウ美味ト
喰ニ糞を此麥飯糞の中へ打捨テ
ゆノハ可惜りのドナア」
と云折角羊畑ニ在
農夫ガ二三人手ノ
鍬録糞斗引提來リテ
声高ニ「んんん」惜以糞
あら持テ仕ッセ人糞ガ雪隠へ
くれて置といあらね」と糞斗と
差つて責う存らる。詞を尽して謝色
ふる頑争聴ぬ百姓質氣勢ハ強きよ
敵一難く去りてあがら我ガ

糞と羊の葉ノ包。路傍ニ
捨んと思へども。野多の農夫ニ護送されハ王子の
街ニ至リ迄臭氣を堪へず持歩行ハハ笑ふよ

絶え新聞あり

轉々堂鈍々殿記



萬富
後

人翁具足屋
元田彫長

